



Pyramix の Monitor Panel

Monitor Panel の概要

Pyramix には Mixer を補完する機能として Monitor Panel が装備されています。

Monitor Panel は、Source と Output を個別に選択することができる、便利なモニターセクションです。

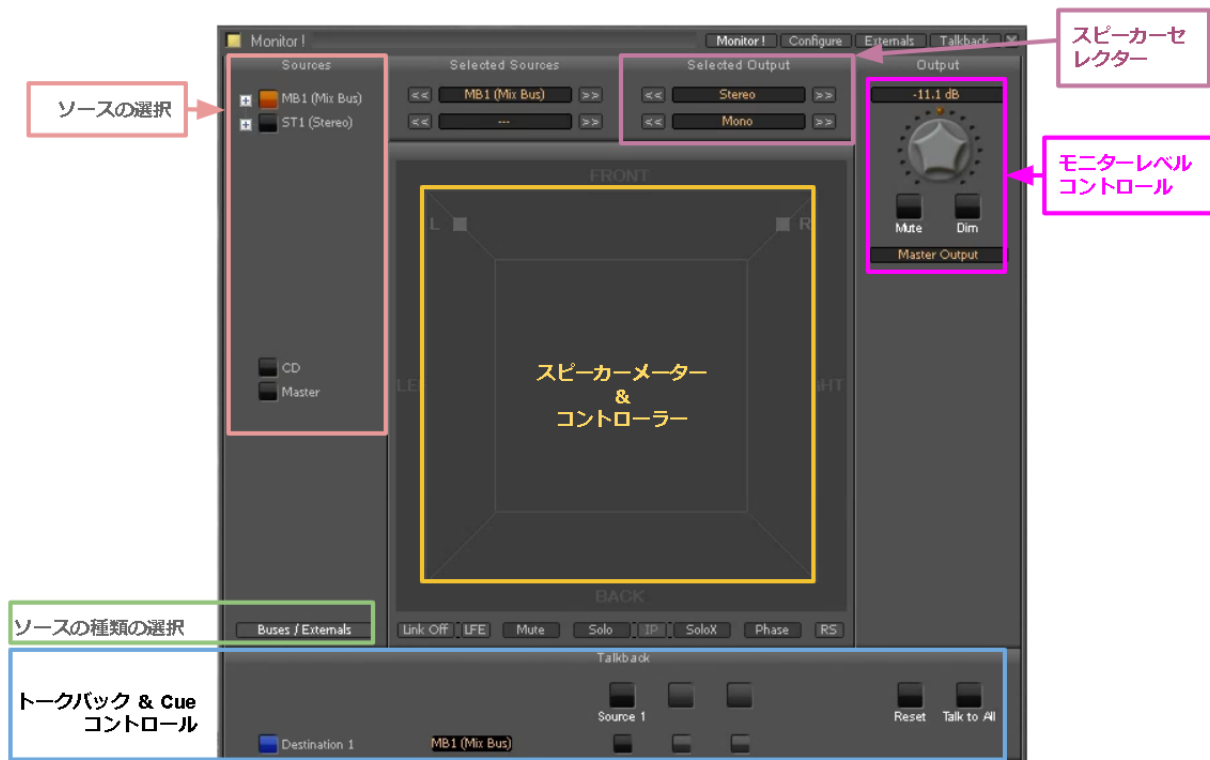
もちろん、外部機器のダイレクト モニタリング機能や、演奏者(アナウンサー)への Cue 送りのコントロール、トークバックの設定も可能です。

Monitor Panel は、

- Pyramix の Toolbar のショートカットをクリックする か、



- メニューの View > Windows / Tools > Monitor を選択することで開くことができます。





Monitor Panel の Enable

Monitor Panel は、**Project** が **PCM** の場合に **Enable** にして使用することができます。
DSDプロジェクトでは動作することができないため常に Disable となり、表示することさえできません。

Monitor Panel を **Enable** にするには、**Monitor Panel** 左上のボタンをクリックして黄色にしてください。



 クリックでボタンを黄色にして Enable に設定する。

このトップバーの右側には、**[Monitor !]** **[Configure]** **[External]** **[Talkback]** のそれぞれの設定ページを開くボタンが並んでいます。

1. Source の選択

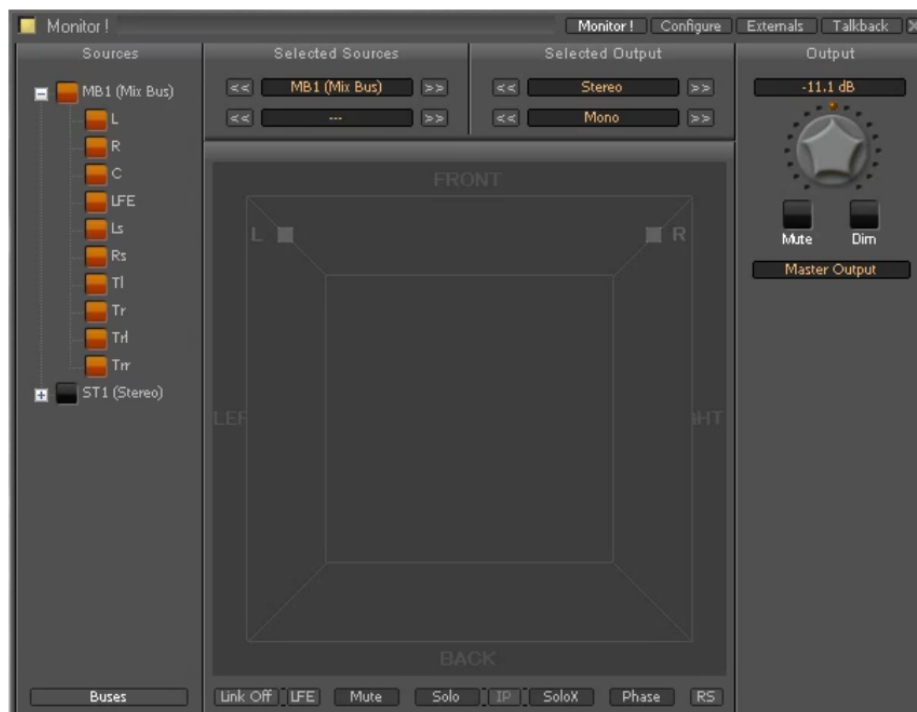
Monitor Panel には **Monitor Panel** の入力である **Source** のセレクトターが左側に備えられています。

1.1. Busses の選択

Busses は、Pyramix の Mixer のバスのセレクトターです。

例えば、開いている Pyramix Project に作成した **Mixer** に **5.1**バスと **Stereo** バスがある場合、どちらのバスをモニタリングするかを選択することができます。

また、バス名の左にある **+** をクリックすると、個々のバスが表示され、**ON/OFF**でどのバスをモニターするか(しないか)を選択できます。





1.2. Source セレクターの表示切替

Source セレクターの下部には、ソースの大きな区分である **Pyramix Mixer Bus** と 外部機器 (**External**) のダイレクトモニターの切り替えスイッチがあります。

スイッチをクリックすると **[Busses] > [External] > [Busses / External]** に切り替わり、該当するものが **Source** セレクター部に表示されます。



1.3. External の作成

外部機器 (External) のダイレクトモニタリングを行うには、**Monitor Panel** 上部右側の **[External]** をクリックして開くページで、どのような機器 (Name) がどの Pyramix システムの物理入力に接続されているかの設定を行っておく必要があります。



1. 左上にある **[New]** をクリックして、新しい外部機器を作成します。
2. 作成した機器名部分ををクリックすると、任意の名前をつけることができます。
3. 右上の **[L] [C] [R] [Ls] [Rs]** の下のボックスをクリックして、外部機器のそれぞれのチャンネルが接続されている **Pyramix システム** の物理入力ポートを設定します。
4. 名前部分を選択して、左上の **[Move Up] [Move Down]** でボタンの表示位置を入れ替えることができます。
5. 名前の右横にある赤いボタンは、それぞれの機器の表示の **Enable** です。

❶ **[New]** をクリックして新しい機器を作成

❷ 名前部をクリックして名前を変更

❸ 機器が接続されている物理ポートを設定

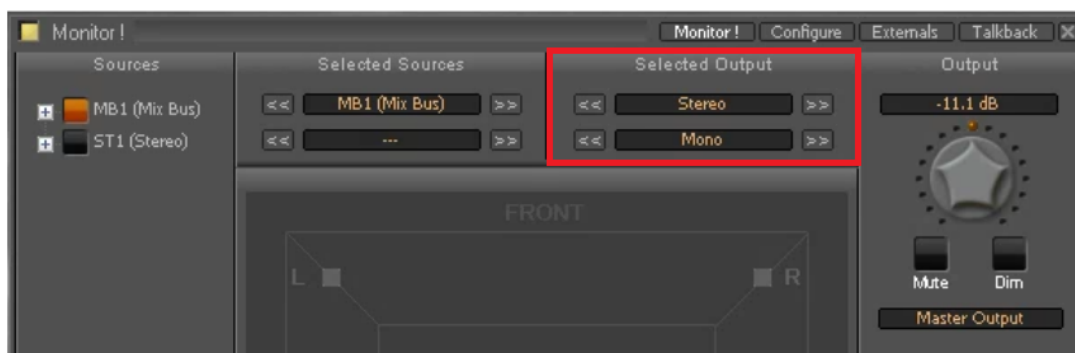
L	C	R	Ls	Rs	LFE	Lo	Ro	Cs	SI	Sr
9	11	10	13	14	12	--	--	--	--	--





2. Selected Output の選択

Monitor! ページのこのセクションには2つの役割があります。これらの設定は **Configure** ページで行います。



- 2.1. 複数のスピーカーセットを設定している場合、スピーカーの切り替えを行います。



- 2.2. 多チャンネルバスをスピーカー数の少ない Speaker Set でモニターする場合、ダウンミックスを聴くことができます。



3. Configure ページ

[Configure] をクリックして **Configure** ページを開きます。



3.1. Preset されている Speaker Set の Enable/ Disable

必要ない Speaker Set は、Disable してください。





3.2. 新しい Speaker Set の作成

[External] のページでの操作と同様、新しい Speaker Set を作成し、物理ポートを設定します。





3.3. Max Vol., Dim Value. Ref Col. の設定

3.4. Merter への送り

これらの設定は、パネル左下にあります。



Max Vol	Monitor Panel のつまみを最大に回した時の出力レベルを設定します。
Dim Level	Dim になった時の減衰レベルを設定します。
Ref Vol.	Monitor Panel のつまみをダブルクリックした時に自動的に設定される リファレンスレベルを設定します。





4. Talkback ページ

このページでは、スタジオスピーカーやヘッドフォンの出力と Talkback に関する設定を行います。
[Talkback] をクリックして開きます。



4.1. Destination

他のページと同様、左上の [Add] で、スタジオ スピーカーやヘッドフォンなどを作成し、それが接続されている物理ポートを設定します。



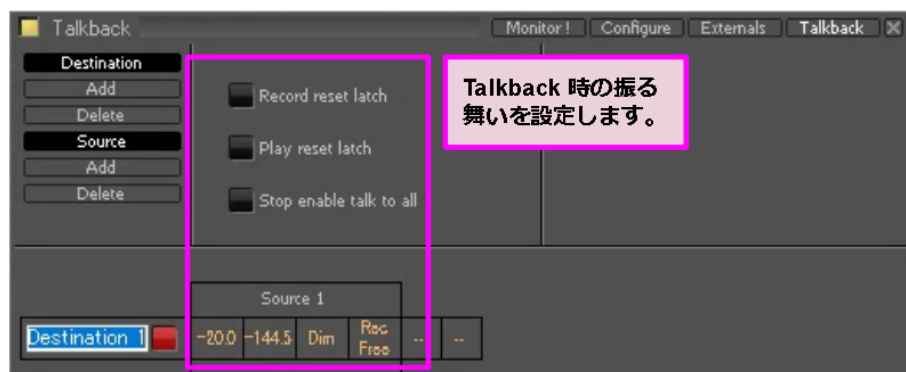
4.2. Source

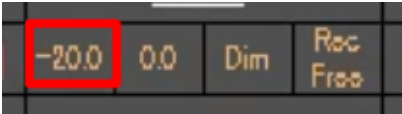
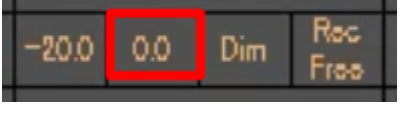
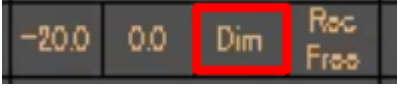
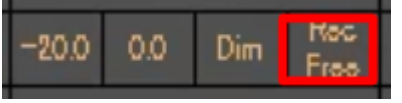
[Add] して、Talkback マイクを接続している 物理ポートを設定します。





4.3. Talkback のモードなどを設定します。



 Record reset latch	ONにすると、DAWが Rec に入ると Talkback がリセットされ、OFFになります。
 Play reset latch	ONにすると、DAWが Play に入ると Talkback がリセットされ、OFFになります。
 Stop enable talk to all	ONにすると、DAWが Stop すると 全ての Talkback がONになります。
	Talkback 時の Dim レベルを設定します。
	送りのレベルを設定します。通常 0dB に設定します。
	Talkback が ON 時の Monitor Panel の動作を設定します。 • Dim: モニターがDimします。 • None: モニターがDimしません。
	Talkback が ON 時の動作モードを設定します。 • Rec Free: ボタンを押されたときのみON。 • Rec Lock: ボタンを押してON。もう一度押してOFF。





4.4. 実際の操作

Talkback は、**[Monitor!]** ページで操作します。



Talkback は **Monitor Panel** の最も下の部分に位置しています。

複数の Destination が設定されている場合は、個別の Talkback もできるように設計されています。



スタジオスピーカー（ヘッドフォン）に送るソースを選択できます。





Appendix 1 : モニター チャンネルの名称

Name	Bus
L	Left
C	Center
R	Right
Ls	Left Surround
Rs	Right Surround
LFE	Low Frequency Effects
Lc	Left Center
Rc	Right Center
Cs	Center Surround
Sl	Side Left
Sr	Side Right
Wl	Wide Left
Wr	Wide Right
VoG	Voice of God
TI	Top Left
Tc	Top Center
Tr	Top Right
Trl	Top Surround Left
Trc	Top Surround Center
Trr	Top Surround Right
Bl	Bottom Left
Bc	Bottom Center
Br	Bottom Right
Brl	Bottom Surround Left
Brc	Bottom Surround Center
Brr	Bottom Surround Right

Name	Bus
Bsl	Bottom Side Left
Bsr	Bottom Side Right
VoD	Voice of Devil
LFE2	Low Frequency Effects 2
Bsl	Bottom Side Left
Bsr	Bottom Side Right
VoD	Voice of Devil
LFE2	Low Frequency Effects 2





Appendix 2: Factory Speaker Sets

None
Mono
Stereo
2.1
Stereo Surround
3.0 / LCR
3.1 / LCR
3.0 Surround
3.1 Surround
4.0 Quadro
4.1 Quadro
4.0 Surround
4.1 Surround
5.0 LCR
5.1 LCR
6.0 LCR
6.1 LCR
6.0 LRC
6.1 LRC
7.0 LCR
7.1 LCR
7.0 / ITU-I (0+7.0)
7.1 / ITU-I (0+7.0)
7.0 SDDS
7.1 SDDS
7.0 / ITU-C (2+5+0)
7.1 / ITU-C (2+5+0)
8.0 LCR
8.1 LCR
9.0 LCR
9.1 LCR
9.0 / ITU-D (4+5+0)

11.0
9.1 / ITU-E (4+5+1)
11.1
Dolby 3.0
Dolby 5.0
Dolby 5.1
Dolby 7.0
Dolby 7.1
Dolby 9.1
Dolby Atmos 5.1.2
Dolby Atmos 5.1.4
Dolby Atmos 7.1.2
Dolby Atmos 7.1.4
Dolby Atmos 7.1.6
Dolby Atmos 9.1.2
Dolby Atmos 9.1.4
Dolby Atmos 9.1.6
10.2 TMH
12.2 TMH
Auro 8.0
Auro 9.1
Auro 10.1
Auro 7.4 / TIU-S (4+7+0)
Auro 11.1
Auro 13.1
KBS 10.2 / ITU-F (3+7+0)
NHK 22.2 / ITU-H (3+7+0)
Cube
Cube + Midlayer
Cube (Comers + Faces)
Cube (Comers + Faces+Edge)
30.2 La Totale